



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「年間指導計画」や、指導事項の系統性に着目して作成した「課題改善カリキュラム」に基づいた計画的な指導を行い、児童に確かな学力を付けさせることのできる指導を展開する。</li> <li>○算数習熟度別少人数指導の効果を高めるようグループ編成等を工夫する。個に応じた指導の工夫・改善に努める。</li> <li>○複数学年での授業や、特別支援学級との交流学習を行い、児童が豊かな学習経験ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着をより一層図るため、国語の授業時数を標準時数よりも多く設定する。</li> <li>○様々な教科で体験学習や交流学習を編成することを通して、問題解決的な学習を展開させる。</li> <li>○朝学習（モジュール学習）を実施することにより、教育活動を充実させるとともに、授業時数を確保し日頃の学習活動を充実させる。課題をもたせ読書に取り組んだり、読書旬間などを設定し読書活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教科にわたって、学習指導要領を見直し、研究主題を「主体的な学びの実現を目指して」と設定し、低・高学年分科会の授業研究、個々の授業実践を通して指導の工夫・改善を図る。</li> <li>○主任教諭・主幹教諭を講師とした研修会を職員会議後に行ったり、授業観察期間中に教員が互いの授業を参観しあったりすることで、授業力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で指導と評価の一体化を図り、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>○各教科の評価テスト、ベーシックドリルを基にした算数基礎基本調査の結果を分析して課題を把握し、授業改善推進プランに反映し、個々の教員の授業改善に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校公開日や道徳授業地区公開講座、保護者会、個人面談などの充実を図り、保護者や地域の方々との相互理解をさらに深める。</li> <li>○学校関係者評価を実施し、その結果分析を行う。保護者や学校評議員に対する説明責任を果たすとともに、家庭学習の充実等家庭・地域との連携による学力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領に準拠しつつ、義務教育9年間を通じて、知徳体の調和の取れた児童生徒を育成するために、小中一貫教育実践校として、学力の向上や文化・芸術教育の推進等において旭丘中学校、小竹小学校と三校合同研究を実施し、小中一貫教育の一層の充実を図る。</li> </ul>

<p><b>検証方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価を活用し、児童・教員・保護者等の回答傾向から課題を明らかにする。</li> <li>○学力状況調査および、単元ごとの到達度テストを活用</li> <li>○発言記録、児童による自己評価による検証</li> <li>○管理職による授業観察</li> </ul>
--